開 催 報 告

# 2026年度 ＪAくらしの活動 （生活文化活動） 担当者パワーアップ研修会

９月１４～１５日、２０２６年度ＪＡくらしの活動（生活文化活動）担当者パワーアップ研修会を開催し、ＪＡ生活文化活動担当者を中心に９６名が参加しました。

同研修会は家の光協会とＪＡ全中で共催し、ＪＡくらしの活動担当者の育成をはじめ、ＪＡファンづくりや女性組織活性化の促進に向け、事例と情報を共有することを目的としています。

課題提起、２つの基調報告、２ＪＡの実践報告、活用講習、研修のまとめについて報告します。



主催／一般社団法人 家の光協会
一般社団法人 全国農業協同組合中央会
後援／全国共済農業協同組合連合会

課題提起

# 担当者の提案からはじまる仲間づくり・グループづくり

## ～組合員・地域住民の集うＪＡをめざして～

**今中 秀典**
家の光専門講師



ＪＡファンづくりにおいて、つながりづくり運動は組織力の強化に役だちます。意識的につながりをつくるには、ＪＡくらしの活動（生活文化活動）が有効な手段です。ＪＡの事業・活動を知ってもらうことはもちろん、どのように接点を増やしていくか考えなければいけません。

ＪＡファンづくりを進めるには、まず対象者を世代や属性で７つのグループ（①元気高齢者、②子育て世代、③未来を担う農業者次世代、④元農家、⑤地域に輝く女性、⑥幅広い地域の人たち、⑦将来のＪＡリーダー）に分けて明確にすること。対象者に合ったＪＡファンづくりの目的やテーマ、取り込みの意義を設定することも大切です。

活動プランの作成では、どんな対象者にどのような方法で活動プランを伝えていくか考えていくこと。組合員とともに「感動」と「達成感」を味わうような活動プランをつくれば、組合員に成功事例を与えることができ、次の参加にもつながります。なかなか難しいですが、ＪＡに集ってもらえるよう考えていただきたいです。

基調報告Ⅰ

# 第30回ＪＡ全国大会決議の実践と組織基盤強化に向けて

**佐々木 悠**
ＪＡ全中 ＪＡ組織・経営対策部 ＪＡ組織基盤対策課 課長



ＪＡの組織構造は時代の変化とともに多様化しています。昔は均質だった正組合員は高齢化に伴い減少・多様化し、准組合員も増加するなか、一部では組合員との関係が希薄化しています。また、組織を構成する〝組合員〟から、〝お客様化〟した組合員が

増加している状況を懸念しています。今後ＪＡが強くなるには、組合員と顔の見える関係を築き、組合員のニーズや課題を起点に事業や活動を提案していくことがカギになります。

組合員との関係強化や次世代対策において大切なのは、どの世代の誰をターゲットにするか具体化し、その上でどのような取組みを進めていくか考えることです。ＪＡの組合員組織・活動の担当者は組合員から本音を聞ける立場です。中長期的に組合員とつながり、次世代への土づくり・種まきをしていただきたいと思います。

組織基盤強化において、組合員は全ての基本です。協同活動と総合事業の好循環を実践するには、農業、食、地域、そして組合員といったＪＡの強みを活かすことがポイントになります。それが地域農業の発展や組合員満足度の向上、さらなる組合員の結集・事業利用、新たな仲間づくりにもつながっていきます。現状分析から方針や計画を策定し、事業や活動を通じ、どのような関係強化を行っていくか考えていただきたいと思います。

それぞれの活動や事業を単発で終わらせたら、ＪＡの強みを活かすことは難しいでしょう。それぞれの取り組みを次の活動や事業につなげ、ＪＡのことを知ってもらい、いろいろな形でＪＡファンになってもらうよう意識して進めていただきたいと思います。

基調報告Ⅱ

# ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会報告書より

**熊田 陽介**
家の光協会 普及文化本部 本部長



今後ＪＡ女性組織は、従来のピラミッド型組織のあり方から、目的別の小グループが集まる「複合体」としての柔軟でフラットな組織のあり方にシフトし、役員負担の軽減を進めていくことが必要です。

女性組織の仲間づくりの対象者は元気高齢者、子育て世代、農業者女性、将来のリーダー層です。仲間づくりを進めるには、まずテーマ軸のグループ活動を強化すること。暮らしに密着したテーマで、５名～10名程度の小規模グループをたくさんつくると良いでしょう。そして教室や講座で地域住民や未加入者に女性組織の活動を知ってもらい、定期的なグループ活動へ誘いましょう。そ

こからリーダー育成につなげていただきたいと思います。併せて、事業利用のメリットを伝え、組合員への加入を進めることも大切です。支店ごとの活動グループづくりも進め、支店を地域の居場所として盛り上げていただきたいと思います。グループ活動では『家の光』や「ＪＡサテライト プラス」を活用しつつ、実践事例から学ぶのも良いのではないでしょうか。

メンバー減少を悲観せず、時代に合わせて生まれ変わるチャンスと捉え、いつでも楽しく、フラットに活動できる目的別グループをつくっていただきたいと思います。

実践報告Ⅰ

# 地域の人を巻き込んだ女性部の仲間づくりを見据えた活動

**中村 美冴**
ＪＡいわて花巻　企画管理部　企画課



ＪＡいわて花巻は女性部の仲間づくりに向け、女性部新部員加入歓迎の奨励施策を実施しました。名簿提出で新部員の加入を確認し、新部員を獲得した支部には、新部員１人につき１，０００円の歓迎奨励金を女性部本部が助成しています。この結果、令和７年度は73名、令和８年度も73名が加入しました。

目的別グループ「きらきら星サークル」は料理やリメイク等の趣味を中心に活動を行っています。組合員外にも開かれており、女性部への加入の入口として機能しています。

地域住民を対象とした講習会として、令和７年度は『家の光』を活用した防災料理教室を開催。２日間で70名が参加し、災害時でも食べることができるレシピを学びました。

新たな取組みとして、『家の光』『ちゃぐりん』記事活用活動助成、仲間づくり活動助成を開始しました。助成を活用した活動も広がっているところです。

今後の課題は、フレッシュ部世代の取込みと環境整備です。引き続き地域住民向けの活動をＰＲし、フレッシュ部世代の活動が継続できるよう先輩女性部員でサポートしていきます。入口となりやすい支部活動のブラッシュアップも進めていく予定です。

これからも女性部員の「活動すること」への意欲を尊重していきたいと思います。

実践報告Ⅱ

# 女性組織活動の『見える化』
## ～現状と今後の課題解決に向けて～

寺内 あずさ
ＪＡグリーン近江　管理部　総務課　課長補佐



ＪＡグリーン近江は令和６年３～４月にかけて行った女性部の加入継続の意思確認を通じ、令和６年度の部員数が１，５７３名であることが分かりました。その後、令和７年度は９１５名まで減少しましたが、料理教室等のイベントの開催を通じ女性部への加入を促したことで、令和８年度７月末時点では９５７名にまで回復しました。

また「女性部あり方検討会」を通じ、役員の後継者がいない中で今後どのように活動を継続していくか検討しました。その結果、支部長を置かなくても支部の活動を継続できるようにしました。しかし、本部役員をはじめ、県の女性協議会への代表者の選出が困難になっています。第２弾の「女性部あり方検討会」では、本部役員の選出方法について意見をいただきたいと考えているところです。

次世代層の増加に向け、女性部員や次世代層、職員を対象とした交流会の実施や退職した職員の女性部への加入促進を行っています。またコープしがとの事業間連携により、ライフプランセミナーも開催しています。これらを通じ、フレッシュミズ世代は51名まで増加しました。

情報発信では公式ＬＩＮＥだけではなく、「ｎｉｍａｒｕＪＡ」や「ＬＩＮＥ ＷＯＲＫＳ」も活用しています。今後は女性部専用アプリを開発していく予定です。

活用講習

# すぐに使える！ 防災セミナーの開き方
## ― 『家の光』12月号の活用 ―

（一社）家の光協会　編集・制作本部／普及文化本部

２日目の冒頭、「防災セミナーの開き方」をテーマに活用講習が実施されました。まず『家の光』12月号別冊付録を参考に、「１週間元気に過ごせる　防災レシピ」として、ポリ袋を使った湯せん調理レシピや災害時における調理の注意事

項を紹介しました。動画やデモンストレーションを交えながら、水の節約方法をはじめ、湯せん調理におけるポリ袋の結び方や耐熱皿を使ったポリ袋の破れを防止する方法等を説明しました。

『家の光』12月号手芸の「折り紙ランプシェード」では、参加者も実際に作品をつくり、作成方法を学びました。特に紙選びについては、光を通す薄手から中厚以下の紙を選ぶこと、耐久・耐水性に優れたユポ紙が防災用に適していることがポイントであると説明されました。





## ま　と　め

**今中 秀典**　家の光専門講師

くらしの活動（生活文化活動）においてするべきことは、ＪＡから寄り添う組合員と利用者との接点の強化、若い世代や地域住民の活動の参加を通じ、新たな関係づくりを行うことです。ＪＡに親しみを持つ人を増やし、「わがＪＡ意識」を持ってもらうことが、組織基盤の強化につながります。

まずは自分のできる範囲で教育文化活動の計画を検討していただきたいと思います。特に『家の光』の普及活動は重要です。「家の光３誌」の活用はもちろん、全世代型食農教育活動や「ＪＡサテライト プラス」等の家の光事業も利用していただくと良いでしょう。「ＪＡ教育文化Ｗｅｂ」にはＪＡの実践事例などが網羅されているので、ご参考いただければと思います。

そして、くらしの活動は笑顔で楽しく活動することが一番大切です。活動で協同の輪を広げていただきたいと思います。